

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立高木瀬小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	・中間評価では、14項目のうちA評価は4項目であったが、最終評価では、A評価は10項目となった。中間評価での取組反省を生かして、現状を変えようとする教職員の意識化と具体的な改善（強化）策が図られたためと考える。提案する部会単独での努力ではなく、チームとして全職員が取り組むことの大切さを実感できた。 ・本校の特色である「時を守り 場を清め 礼を正す」は、文言としてはしっかり覚えているが、実際の具体的な指導が不足し、マンネリ化している。発達段階に応じて日常的に意味付けをしながら指導することで、人格を育て、才能を引き出し伸ばしていく。また、「ほめほめ活動」などを通して児童同士が相互理解を深めるような活動を仕組んだり指導をしたりしたことで、児童の自己肯定感の向上に大きな成果を得ることができた。 ・学校生活ではある程度達成できている「無言・無音掃除」「履物そろえ」が、家庭生活ではなかなか実践できていない。学校での取組内容について、より多く・より詳しく保護者に対して情報発信を行い、理解と協力を得ることが必要である。
------------------	--

2 学校教育目標	個性と創造性に富む子どもの育成 ～「時を守り 場を清め 礼を正す」を土台に、「自分で思考し、決定し、総括する」指導・支援を手立てとして～
----------	---

3 本年度の重点目標	「『時を守り 場を清め 礼を正す』を土台に『自分で思考し、決定し、総括する』」を本校の指導・支援のキーワードとする。 ○「時を守る」・・・「時間を守る」 ○「場を清める」・・・「整理整頓をし、清潔にする」 ○「礼を正す」・・・「相手を尊重し、礼儀正しくする」 ○「思考・決定・総括」・・・「自分で考え、自分で決め、振り返る」
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○児童が主体的に学習できる環境や学習過程の充実	○校内研究に能動的に参加し、教師全員が学習課題を立て授業に臨むことができる。	・教師が「課題に感じていること」や「見てほしいところ」、「意見が欲しいところ」などを視点にして、お互いに授業公開をする。	A	・50本を超える授業公開を行うことができた。 ・職員間で声を掛け合いながらミニ研修に参加したり、事後の語ろう会に参加したりして、主体的に校内研に取り組むことができた。 ・校内研以外の授業でも学習課題を立てている職員が増えた。	A	・公開授業の数が50本以上ということに熱心さを感じるが、職員の負担となっていないか気を付けたい。 ・指導案をシンプルにして大事な点のみ書き表す姿勢がよい。
	○児童が自ら進んで取り組む家庭学習の充実(個別最適な学習)	○「自分に必要な内容を考えて家庭学習に取り組んでいる」と答える児童を80％にする。	・宿題を学年の実態や個々の能力等に応じて選択的に行うように指導する。(例)パソコンの持ち帰りで取り組む課題を選択したり、効果的内容を考えたり、1週間分の宿題をいつ行うか選択したりできるようにする。	A	・「自分に必要な内容を考えて家庭学習に取り組んでいる」の質問項目について、「よく当てはまる」と「当てはまる」と答えた児童の合計が83.3％であった。 ・自学に加えて、今年度は3年生以上で「eライブラリ」を宿題に出し始めた。これにより、取り組む期間や内容を、児童が選択できる幅が広がった。	A	・自分で考えて取り組む姿勢をこれからも大事にしてほしい。 ・自分に必要な内容の家庭学習に取り組んでいると答えた子供は8割だが、あとの2割の子供が困っていないか確認する必要がある。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動を積極的に行ったと回答する教師を80％以上にする。	・児童の善い行いや頑張っていること等を紹介する「ほめほめタイム」で、週に10人以上の児童を紹介する。 ・全職員が輪番で各クラスに入り、いじめ・いのちについての話をする。 ・平和週間や人権週間には、平和・人権を尊重する学校文化の醸成のために、児童の考えや意見を掲示する。	A	・「ほめほめタイム」では、「時・場・礼」の3つに分けて児童を紹介したり掲示したりすることで児童の意識を高めた。 ・「児童同士が相互理解を深めたり、豊かな心をはぐくむような活動を仕組んだり指導したりしている」という質問項目について「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた教師が96％であった。 ・人権週間では、各学級で人権についての学習を実施したり、ピンクシャツデーを全校で取り組みいじめを許さない意識を高めたりすることができた。人権集会では、1・3・5年生による発表を行い、全校で考えを交流することができた。	A	・人権教育に関わる数々の取組が素晴らしい。特に、ピンクシャツデーや職員が入れ替わって各学級の指導に入る「いじめ・いのちの日」の取組はよいアイディアだと思う。 ・すぐに子供たちの行動に成果が表れなくても、人権について考えるきっかけとなったり、後々思い出してよい行動につながったりすると思う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「友達と楽しく学校生活を送っている。」と答える児童を90％以上にする。	・毎月「こころのアンケート」を実施し、児童の心の状態を把握し、いじめの早期発見に努める。記載内容には全て対応し、早期解決を図り管理職への報告を行う。 ・気がかりな児童については個別対応を継続し、毎月の生指相会議で職員の情報共有を図る。	A	・「友達と楽しく学校生活を送っている」という質問項目について「よく当てはまる」「当てはまる」と答えた児童は95％であった。 ・「こころのアンケート」の実施後の流れを統一したが、徹底が不十分なところもあった。 ・ここにこルームの運用方針を作成したことで、利用の基準を教職員で共有することができた。	A	・保護者アンケートの記述に、職員の丁寧な指導や寄り添う姿勢に対して感謝の言葉が多く述べられていたのに感動した。 ・「学校生活を楽しく送っている」と回答した子供と保護者が95％であったのが素晴らしい。様々な教育活動できちんと対応されてきた成果である。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「歩いて登校している」と答える児童を85％以上にする。 ○「週1日以上外で元気に遊んでいる」と答える児童を70％以上にする。	・保健委員会を中心に、全校放送で呼びかけたり、登校を促すような取り組みを実施する。1・2学期に1回ずつ集計表を配布し、歩いて登校できた児童の数を集計する。 ・運動委員会を中心に、スポーツチャレンジ週間を設定する。期間終了後に集計表を配布し、達成した児童の数を集計する。	A	・保健委員会を中心に、徒歩登校を促す取り組みを行うことができた。中間評価では、およそ85％を超える児童が、最終評価では、91％の児童が歩いて登校していると回答しており、意欲の高まりが感じられた。 ・2学期にスポーツチャレンジ週間を設定することができた。全クラスは達成できなかったが、各学年1学級以上は実施することができた。外遊びについては、目標の70％を超え、82％まで成果を挙げることができた。	A	・家が遠い子でもしっかり歩いている姿を見かけると一緒に歩いて登校する保護者もいる。学校の思いが届いているのでは。 ・「歩くのが当たり前」と思っていたので、目標に掲げられていることに驚いた。実態を知って納得した。体力づくりを含め、今後とも推奨していったほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間、年間360時間)を遵守し、勤務時間を意識した働き方を定着させる。	・年度途中でも必要があれば業務を平準化する。 ・データの共有化や資料の整理整頓を進め、業務の効率を上げる。 ・見通しをもって計画的に業務を遂行するために「ㄦ切ボード」を活用する。	B	・ㄦ切ボード作成、印刷室の改造と整理、次年度行事の精選等、常に業務改善を意識した取組や提案がなされ、少しずつではあるが業務の効率化が進んでいる。 ・時間外在校時間平均は35時間であった。45時間を超えた職員が21名であり、業務の平準化をさらに検討していきたい。	B	・45時間設定が難しいのではと感じる。他校の例であるが、在校時間を減らして持ち帰りの業務を行っている職員もいると聞いた。 ・少しでも業務時間が減るように授業時間数や持ち時数が減ることを願う。
●特別支援教育の充実	○個別的教育支援計画や個別の指導計画に基づいた個に応じた指導・支援を行う。	○個別の指導計画に取組や成果を毎月記入し、指導・支援に活用する。	・生指相会議で共有と記録の時間を取り、100％記録できるようにする。 ・学校生活支援員、特別支援学級支援員の業務記録を回覧することで児童の状態や支援、その効果を共有する。	B	・個別的教育支援計画や個別の指導計画を記入する時間を学期ごとに確保することができたが、学級によって活用にはばつきがあった。今後は毎月記録する時間を確保するようにしていきたい。 ・学校生活支援員の記録を特別支援COが閲覧するようにしたことで、気になる児童の様子を共有できるようになった。	A	・交流学級での活動が多い子、ほとんどを支援学級で過ごす子など、子供によって状況は様々であるが、特別支援学級と学級の交流がうまくいくことが大事だと思う。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
◎志を高める教育	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80％以上。 ○自分たちのきまりを自分でつくる。	・道徳や学級のショート時間の時間、学年集会等を活用し、教師が夢や目標について語る場を月に1回設ける。 ・形骸化していた「みんなのきまり」を自分たちで内容を見直し、新しい「みんなのきまり」を作成する。	A	・「将来の夢や目標」について、肯定的に回答している児童が88％であった。学期末ごとに自分の学習や生活を振り返る時間を設けることで、次の目標を決めるきっかけとなった。全校放送での「〇〇名人」の紹介で、なりたい姿が想像しやすいように、具体例を挙げながら伝えることができた。 ・6年生は、学習用具について自分たちできまりを考えることができた。他学年にも「自分で考える」姿勢を広げたい。	A	・これから社会に出ていく上で、自分で考えるという姿勢はとても大事。 ・子供が自分たちで考え、理由も伝えた上で先生達に交渉したエピソードを聞いて、先生方と子供たちの信頼関係が見て取れた。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・中間評価で2項目であったA評価が、最終評価では6項目となり、保護者アンケートや外部評価でも学校教育活動に対して高い評価を得ることができた。全職員が学校教育目標を念頭に置きながら児童に寄り添うことを第一に考えて日々の教育活動に取り組んできた成果であると考えている。 ・「時を守り 場を清め 礼を正す」は達成できていると自己評価した児童が8割に達したが、実際の行動を見ると時間を守れていない現状があった。また「履物そろえ」や「挨拶」は家庭での評価が低く、日常的に実践できていないことが窺えた。学校での取組内容を精査していくと共に、保護者と共有して理解と協力を得ながら目標達成を目指していく必要がある。 ・今年度から重点目標に掲げた「自分で考え、自分で決める」をより強く意識し、生徒指導や教育相談を始め、様々な支援・指導場面に取り入れていくことで、児童の当事者意識や主体性を育んでいきたい。
--------------------	---